

授業科目

臨床薬理学

担当教員名 尾崎 昌宣、 高中 紘一郎	対象学年	2	対象学科	看護
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	○		

授業の概要

薬理学は、薬物と人体の相互作用を理解・研究する学問で、医学／看護学分野では、薬物治療学の基礎を理解する分野である。本授業では、薬効を左右する体内動態・要因、薬物効果・発現機序、副作用、相互作用、適用法について、看護に必要な薬理学と薬物治療の概念と知識を講義する。

授業の目的

看護に必要な薬物療法の基礎を知る。

学習目標

1. 看護学において必要な薬理学と薬物治療の概念と知識を習得する。
2. 薬物の体内動態などの薬効に影響を及ぼす要因についての知識を修得する。
3. 看護学において必要な、病態・疾患下における薬物効果と作用機序・副作用・相互作用・禁忌・適応についての基礎知識を習得する。

以下の項目について、薬物療法の知識を習得し、看護／医療に活かせる能力を身につける。

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	薬理学総論 医薬品とは 分類、名前、法律、開発から臨床まで 薬はどのようにして作用を現すのか	講義	尾崎 昌宣
2	薬理学総論 医薬品の作用原理とその影響 薬物動態、薬理効果に影響を与える要因、副作用、相互作用、医薬品の 適正使用、薬害	講義	尾崎 昌宣
3	薬物学各論 生活習慣病に使用する薬 循環器系、脂質異常、糖尿病、脳血管障害の各疾患に使用する薬	講義	尾崎 昌宣
4	薬物学各論 がん・痛みに使用する薬 抗がん薬、がん性疼痛に使用する薬	講義	尾崎 昌宣
5	薬物学各論 脳・中枢神経系疾患で使用する薬 てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー型認知症の各疾患に使用する薬	講義	尾崎 昌宣
6	薬物学各論 脳・中枢神経系疾患で使用する薬 精神疾患（気分障害、睡眠、不安など）に使用する薬	講義	尾崎 昌宣
7	薬物学各論 感染症に使用する薬 細菌、ウイルス、真菌、寄生虫、消毒・予防の各感染症に使用する薬	講義	尾崎 昌宣
8	薬物学各論 救急救命時に使用する薬 ショック、医薬品中毒、麻酔時に使用する薬	講義	尾崎 昌宣
9	薬物学各論 アレルギー・免疫不全患者に使用する薬 炎症、アレルギー、気管支喘息、呼吸器疾患、関節リウマチ、全身エリ トマトーデスの各疾患に使用する薬	講義	高中 紘一郎
10	薬物学各論 消化器系疾患に使用する薬 消化性潰瘍、健胃、嘔吐、胃腸機能、下痢・便秘、腸、肝・膵臓の各異 常時に使用する薬	講義	高中 紘一郎
11	薬物学各論 代謝性疾患、運動機能障害に使用する薬 痛風、高尿酸血症、骨粗鬆症の各疾患に使用する薬	講義	高中 紘一郎
12	薬物学各論 血液・造血障害に使用する薬 貧血、血友病、播種性血管内凝固症候群、播種性血小板減少性紫斑病の 各疾患に使用される薬	講義	高中 紘一郎

13	薬物学各論 内分泌障害、性・生殖機能障害に使用する薬 甲状腺機能異常、アジソン病、クッシング症候群、尿崩症の各疾患に使用される薬	講義	高中 紘一郎
14	薬物学各論 皮膚、視覚、痛覚異常および輸液に使用する薬 褥瘡、白内障、緑内障、結膜炎、頭痛、腰痛、月経痛、輸液に使用される薬	講義	高中 紘一郎
15	まとめ	講義	尾崎 昌宣、高中 紘一郎

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち2 臨床薬理学	古川 裕之、赤瀬 智子、林正健二 他	メディカ出版	2016年	3,400円	
参考書	系統看護学講座 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進3	吉岡 充弘、泉 剛、井関 健	医学書院	2016年	2,300円+税	
	薬の地図帳	伊賀 立二	講談社	2009年	4,000円+税	
その他の資料						

評価方法

期末試験で評価する

履修上の留意点

薬の名称、代表的な商品名、薬理作用と機序、副作用、相互作用、注意点、適応などを関連づけて覚えてください。

オフィスアワー・連絡先

授業内容の質問・相談がある学生は、所属学科・学年・学籍番号・氏名・用件を記入の上、office-hour@nuhw.ac.jpへご連絡ください。